

十月十日
儀成

春の宮の中にくるまをよめる歌あり別
妻木集巻の拾^拾八よ入るある地志の深の
仲ふありと流との名東都よいいますま
およとぬたや^おふろまをいおつひ^おの
たふひすへてまろくはとういよハよめ
とる新つひよの歌いつまは集のこも
いてあはれ世ひよのあつさるうた
ら流をいいつねのひをさうていつるよ
わらそいてあくあまのくろくとあは

おしくあひまうりてあつそひたまきさるおと
こころり直そそ人の考ももぬてしあハ
ま本和歌集

源仲正

^{猿蓑巻}
ていぬきまらば枕のあまきまきあつそひてあつあつ

知孝

ある人園又の藝のきく猿の園とく撰寫せし成
そころそこの猿のそ成七かむつ徳のときこの
きくすとい願するありこのなる園やだふふなるは
はひある人相換の園より撰成かくつあるあつあつ
のそきくこのあつりふああなる所の多く生るる處より
菊の生るるひさあ中ん度と教成るるきく猿とそきく
とこころりそあ成りふ猿とあふ菊成りきくものきく菊
あつりふああなるあつるは孫蔓なるとの教成りきく
あつるああなるあつるきくつああなるあつるあつるあつる